



鴻巣西中通信

学校だより No.3

学校教育目標 「心豊かで たくましい 西中生」
公式ホームページ <https://konishi-j-konosu.edumap.jp/>

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間1161番地
令和6年5月31日

なぜ「修学旅行」へ行くの？

埼玉県教育委員会「埼玉県公立小・中学校が行う校外における行事の実施基準の改訂について」（平成14年4月1日）によると、「修学旅行は、自然・文化・経済・産業・政治などについての見聞を広げるとともに、集団のきまり・公衆道徳などについての望ましい体験を得させることを目的とする」とあり、以下のとおり細かな点が記述されています。

時期・年間を通じ、適当な時期に実施する。

日数・中学校においては、2泊3日とする。

経費・目的の達成と保護者の経済的負担を考慮して、適正な額とする。

実施学年・在学中1回に限り、最終学年又はその前学年において実施する。

参加率・学年人員の85%を下らないものとする。

また、「中学校学習指導要領」では、修学旅行は、特別活動（学級活動・生徒会活動・学校行事）のうちの1つ「学校行事」であり、5つある「学校行事」（儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事）の「旅行・集団宿泊的行事」です。その目的は、「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。」とあります。なお、「修学旅行」が教育課程に明確に位置づけられたのは昭和33年（1958年）の学習指導要領からであり、それ以前にも修学旅行は行われていました。インターネットで「昭和」の画像や映像を見ることもできます。舟木一夫の歌う「修学旅行」がヒットしたのは昭和38年です。歌詞には「汽車はゆく 汽車はゆく」のフレーズがあり時代を感じさせます。

修学旅行保護者説明会でもお話ししたように、これだけインターネットを始め修学旅行に関する映像資料や紙媒体資料も豊富に揃っているのに、わざわざ奈良や京都に行くのか？ それは、社会科等を中心に学習してきた内容を確認するとともに、新たな発見をするためです。こればかりは現地に行かないと経験できません。「百聞は一見に如かず」ということわざを実感することになります。生徒は主に、神社仏閣を見学しますが、ぜひ建立された当時にタイムスリップした気持ちで見てもらいたいです。と同時に、神社仏閣から離れた現在の市街地の様子もバスやタクシーに乗りながら観察してみるのも面白いかもしれません。まさに「温故知新」です。

私が担任をしていた当時は、2日目は終日京都の班行動で、電車やバス・徒歩で事前に計画を立てたコースを回ったものですが、今では、効率の面でタクシーを利用する学校が増えています。電車やバスの乗り間違えもなく、運転手さんのガイドもあるので学習が深められます。私がかつて修学旅行担当として下見（実地踏査）で京都をタクシーで回った時の運転手さんの話を今でも覚えています。それは、なぜ京都は唐辛子が有名かということです。理由は、お坊さんは滝に打たれる修行があり、当然体が冷えますので、お粥に唐辛子をかけて食べると体がポカポカ温かくなるからということで、唐辛子の栽培というか製造が盛んになったということです。これは一例ですが、生徒には、「当たり前」「普通」ではなく、「なぜ」「どうして」という疑問をもちながら、その疑問を解きながら貴重な3日間を過ごしてほしいという願いがあります。「なぜ大仏が建立されたのか？」でも「大仏はどのようにして造られたのか」でも十分です。1つでも多く「学」を「修」めてもらいたいです。

コロナの収束とともに、海外からの観光客が大勢、日本の古都である奈良・京都等に訪れ、「オーバーツーリズム」（観光公害）が問題となっています。目的にもあるとおり、「公衆道徳」の体験を積みながら実り多き修学旅行になるように、安全・健康を第一に行って参ります。

（校長 橋本 浩）